

press release



リニューアル・オープン20周年記念 広島県立美術館 所蔵作品展 広島県立美術館ベストセレクション展



1		
2	3	
4	5	6
7	8	9

- 1: 《厳島園》 17～18世紀(江戸時代)、紙本金地彩色
- 2,3: 《伊万里柿右衛門様式色絵馬》 17世紀後半(江戸時代)、磁器・色絵
- 4: 南 薫造《坐せる女》 1908(明治41)年、油彩・画布
- 5: 奥田元宋《秋疊真如》 1977(昭和52)年、紙本彩色

- 6: 森野圓象《静かな海》 1975(昭和50)年、木・彩色
- 7: 重要文化財《伊万里色絵花弁文輪花鉢(柿右衛門様式)》 17世紀後半(江戸時代)、磁器・色絵
- 8: 北ヨムート族 トルクメン人《花嫁用頭飾り》 19世紀前半、銀・鍍金・カーネリアン
- 9: アレクサンダー・カーノルト《静物》 1925年、油彩・画布

2016年8月31日(水)～12月18日(日)

開館時間: 9:00 - 17:00

※ 10月30日までの金曜日は20:00まで開館、それ以降の金曜日は19:00まで開館 ※ 入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※ 特別展会期中・祝日・振替休日を除く ※ 東山魁夷展は月曜休館

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※ ()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぷる〜ぷ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)



【概要】

リニューアル・オープン20周年記念「広島県立美術館ベストセレクション展」

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年10月に現在の建物に生まれ変わり、10月6日のリニューアルオープンから20年の節目を迎えました。開館以来、多くの皆さまからご寄贈などのご協力を得て、現在のコレクション総数は約4,900点。とくに、収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920-30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」を掲げ、とくに近代絵画とアジアの工芸作品が充実しています。

今年度の所蔵作品展は、コレクションの特色が際立つ企画をとり揃え、4期に分けて開催しています。秋からの第3期・第4期では「広島県立美術館ベストセレクション展ーコレクションの粋をお見せします！」と題し、当館を代表する作品の数々をご覧ください。

企画内容にあわせて作家や作品の解説も見直し、装いも新たにスタートした今年度の所蔵作品展。何度でも見たい、と言っただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。

【内容】

彫刻

当館の彫刻コレクションは、圓鐔勝三や平櫛田中をはじめとした広島ゆかりの彫刻作品、そして、1920-30年代を中心とした西洋の彫刻作品等で構成されています。

今回の彫刻展示スペースではリニューアルオープン20周年を記念して、そうしたゆかり作家の作品を中心に、みなさまから親しみやすいと好評の人物像を厳選しました。

国立劇場の《鏡獅子》で有名な平櫛田中や、東京駅新幹線乗換口の顔として親しまれている《仲間》の作者圓鐔勝三、版画家としても国際的に活躍した水船六洲など、同じ彫刻、同じ人物像といいながら、それぞれに違った魅力を放つ実力派8人の作品をご紹介します。それぞれの作家の個性豊かな表現をお楽しみください。



森野圓象 《静かな海》
1975(昭和50)年、木・彩色

西洋美術

「1920～30年代の美術」という重点方針に沿って収集した西洋美術の作品群は、油彩画、水彩画、版画、写真、彫刻等の分野から構成されています。

第一次世界大戦(1914～1919)から第二次世界大戦(1939～1945)にかけて、西洋では多彩な美術運動・表現が展開されましたが、それらは時代状況と密接に結び付いたものでした。例えば、「理性による一切の制約、美学上、道徳上の一切の先入観を離れた、思考の書き取り」を推し進めたシュルレアリスム。一団となって戦争へと歩んでいった熱狂への反動から、醒めた視線による克明な形態描写に努めた新即物主義。工業化によって低俗な商品が大量生産されていく中、産業と芸術との統一をはかったバウハウス。

今期はベストセレクションとして、シュルレアリスムの代表的作家であるサルバドール・ダリをはじめ、幾何学的抽象画に影響を受けたアレクサンダー・コルターら14作家による、時代を写した作品15点を厳選してご紹介します。



アレクサンダー・コルター 《静物》
1925年、油彩・画布



日本洋画

当館の日本洋画コレクションは、近・現代洋画史を俯瞰しつつ、重点方針である「広島県ゆかりの美術」と「1920～30年代の美術」に沿って収集した油彩画、水彩画、版画等を軸に構成されています。二つの世界大戦に挟まれた1920～30年代は、第一次大戦後の活況などを背景に日本人画家のヨーロッパ留学が増えるとともに、雑誌等のメディアも発達し、西洋の先進的な美術思潮がほぼ同時代的に紹介されるようになった時代です。洋画家たちは、新しい表現様式に学ぶ一方、単なる模倣ではない、日本人ならではの絵画表現を探求することで、個性と創意に満ちた清新な作品を生み出していったといえるでしょう。

ベストセレクションと題した今期は、広島近代洋画史を支えた中心的作家である小林千古、南薫造、鬚光をはじめ、1920～30年代に独自の画風を展開した日本洋画史を代表する画家たち、さらには、戦後、国際的に活躍した菅井汲や高橋秀ら、14作家の24点をご紹介します。明治から平成に至る多彩な作品を通じて、1920～30年代に向けて深まる近代洋画の成熟と、戦後の新たな展開を感じていただけることと思います。



南 薫造 《坐せる女》
1908(明治41)年、油彩・画布

日本画

今期は、近世・近代・現代の各期にわたる当館所蔵日本画から代表的な作品を取り上げます。

まず近世からは、日本画の源流を掴むことのできる屏風や掛軸を展示します。神の島と崇められた厳島や身近な花鳥・人物などの表現に重ねられた創意工夫が、江戸時代の確かな鼓動を伝えます。続く近代からは、才気あふれる俊英たちによる日本画の近代化を表わす名品を展示します。橋本雅邦、竹内栖鳳、横山大観、菱田春草などによる草創期から、北野恒富、土田麦僊、村上華岳、速水御舟らの革新期まで明治・大正を生きた画家の熱を帯びた作品たちです。

1920年代(昭和以降)、広島ゆかりの画家たちは中央画壇でひととき強い光彩を放つようになり、その流れは戦後さらに加速しました。近代日本画の正統を受け継ぐ児玉希望を筆頭に、日本画の現代化を進めて文化勲章へと至った奥田元宋、平山郁夫などの作品は、戦後日本画の高みを示すものです。

江戸・明治・大正・昭和にいたる各時代に生まれ、平成の世になお輝きを増す29点の作品(展示替えを含む)をたっぷりご鑑賞ください。



奥田元宋 《秋巒真如》
1977(昭和52)年、紙本彩色



日本とアジアの工芸作品

当館の工芸コレクションは、特別収集重点方針のひとつ「日本と(を含む)アジアの工芸作品」を基本に構成されています。これは他の美術館とは一味違ったコレクションを形成することを目指して定められたものです。

今期、日本の工芸作品からは、江戸時代・柿右衛門様式の名品3点と近代陶磁、アジアの工芸からは、シルクロード・中央アジアの刺繍布スザニと民族衣装、世界有数の質と規模を誇るトルクメンのシルバー・ジュエリー、そしてインドの貴重な更紗をご覧ください。それぞれの時代と場所で作られた多様な工芸作品に心のやすらぎを感じていただければ幸いです。

当館が所蔵する工芸作品は、他にもたくさん。日本では、広島県ゆかりの工芸作品はじめ、近代日本の漆工、前衛陶芸など。アジアでは、インドネシア・バリ島テンガナンの経緯緋グリーンシン、ペルシア文化の影響も色濃い西アジアの金工品など。来期以降も変化に富んだ館蔵品の魅力をご紹介します。乞うご期待！

【関連イベント】

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時: 平日14:00~/土日祝11:00~/14:00~(1時間程度)

場所: 2階展示室

参加料: 無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※11/5 14:00の回は休み

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。



重要文化財
《伊万里色絵花卉文輪花鉢(柿右衛門様式)》
17世紀後半(江戸時代)、磁器・色絵



北ヨムート族トルクメン人
《花嫁用頭飾り》
19世紀前半、銀・鍍金・カーネリアン

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎 綾、山下 寿水

事業推進課 山本 恵子